

# 助産師、看護師 スキルアップ

全国的に産科医不足が問題になる中、岡山大大学院保健学研究科は、助産師、看護師などを対象にスキルアップを目指す「即戦力育成プログラム」に2009年度から取り組む。超音波検査や新生児蘇生法など、普段は医師が担う分野を習得させることで医療知識と技術を高め、医師をフォローする人材を育てるのが狙い。(水嶋佑香)

来年度から 岡山大大学院保健学研究科

# 「即戦力プログラム」開始

いる。

プログラムは中四国の助産学生が就職前から「先輩」産師、産科の看護師、看護と交流することで、仕事へ学生が対象。講義と実技講の不安を取り除く効果が期待を一年間に計十五回行待される。遠方でも受講でう。第一線で活躍する医師 きるように、インターネット

## 産科医不足に対応

検査など  
フォロー 1年間、講義と実技15回

らを講師に、胎児や胎盤のトで学ぶ態勢も整えた。の復職支援にもなれば」と

異常を発見する超音波検査、新生児の気道を確保す場では、院内・院外助産院 プログラムは定員二十人

る挿管方法などを習得すを設置して正常分娩は助産(応募多数の場合は選考)、

る。不妊症や、子育て中の師、リスクが高い場合は産無料。申し込みは十二月十

女性支援についても学ぶ。科医とするなど役割分担の五日から一カ月間、同研究

講義の合間に受講生同士 傾向が現れ、助産師のスキ 科教務第二係(086-2

の情報交換の場も設け、看 ルアップが一層求められて 23-7151)。

岡山大では〇七、〇八年度、短期の助産師教育の講座を二回実施し、十人の定員に百人以上の応募がある

人気ぶりだったため同プログラムを計画。担当の中塚

幹也・同研究科教授は一現場では助産師も数が足りな

い。結婚などで離職した人